

技術・家庭科[家庭分野]

浦上千歳

I 研究の経緯

1 昨年度までの研究

学習指導要領・改善の基本方針の中で、家庭科については、社会の変化に対応しながらも自立的に生きる基礎を培うことを重視し、小中の内容が体系化されている。本校でも研究主題「学びがつながる授業づくり」に基づき、小・中の「学びのつながり」をスムーズにするために、Ⅱ期の小学校家庭科で科学的な視点を取り入れた学習を足場づくりとして行い、Ⅲ期の生活を科学的にとらえた実践に基づいて課題をもってとらえなおす力をつけていく学習を仕組んできた。しかし、昨年より小学校の専任教員が不在なため、中学校教員のみの研究になっているため、ここ2年間については、Ⅲ期中心の研究となっている。昨年度までの取組みの中で、明らかになってきたことは、次の通りである。

- ・科学的思考を取り入れることで生活実践力の高まりがみられた。
- ・Ⅱ期をさらに前期と後期に分け、家庭科教育5年間における学びのつながりを図式化し整理するとともに、どの時期にどの視点の科学的思考を重点的に取り入れるのかについて系統立てることができた。
- ・科学的思考の材料として、文化的・伝統的視点を取り入れた学習が、課題を持ってよりよい生活を創造していこうとする意欲を高め、課題を持って生活をとりえ直す生活実践力をつけることにつながるということがわかった。
- ・科学的思考の材料としての文化的・伝統的視点として、きものを扱うこと、また、実物を扱うことで学習効果が上がることが分かった。
- ・Ⅲ期では、遠隔環境まで学習内容を広げることで、発信を体験させることができ、自己肯定感の高まりがみられた。

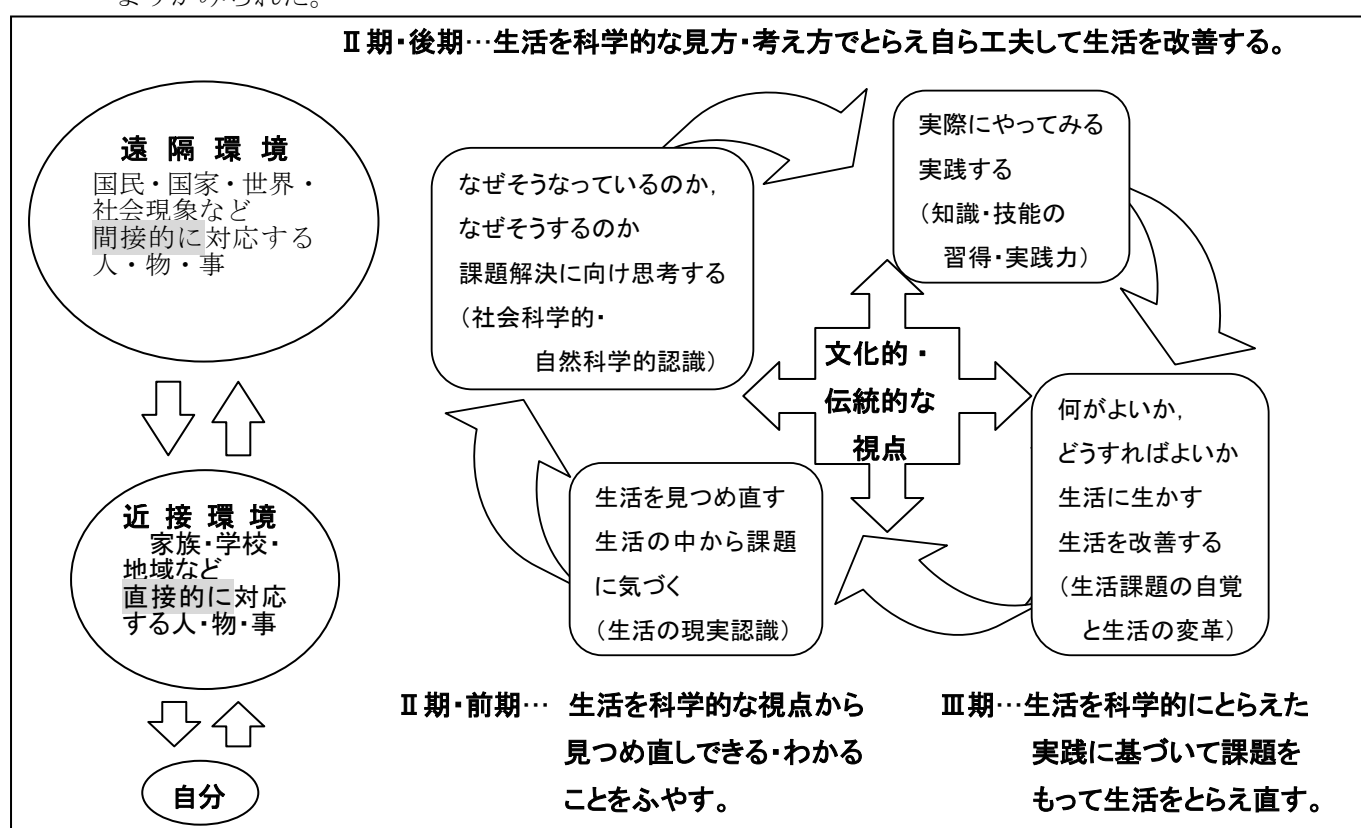


図1 家庭科におけるⅡ期・Ⅲ期の学びのつながり

表1 学習方法の科学的な視点

Ⅱ期	小学校5年生	・具体物を使った説明 ・丁寧な直接体験での技能習得 ・今までの生活を科学的な視点から見つめ直す学習
	小学校6年生 中学校1年生	・データ（数値）やグラフからの思考・考察 ・推論を行ってからの実技体験 ・文化的・伝統的な視点を取り入れた学習 ・個別の生活経験・様式を一般化，概念化 ・自分と直接的に対応する物との関係の視点
Ⅲ期	中学校2年生 中学校3年生	・理論を取り入れた学習 ・文化的・伝統的な視点の活用 ・これまでの学習で習得した知識・技能を活用した実技体験と発信 ・地域社会と家庭生活のかかわりをふまえた学習による概念化 ・自分と間接的に対応する人・物・事を取り巻く遠隔環境の視点

2 今年度の取り組み

今年度は、研究内容を「ものづくり」に焦点化して、Ⅱ期、Ⅲ期の授業のあり方を探る。

本校、技術・家庭科の家庭領域において、「ものづくり」は授業の中核をなすと考えている。この「ものづくり」において、科学的思考の材料としての伝統的・文化的視点を取り入れることで、これまでの単なる完成を目的とする「ものづくり」から、地域社会につながる手段としての「ものづくり」にすることができるのではないかと考え研究を進めたい。

3 中学校卒業時の目指す生徒像

科学的な見方や考え方ができ、自己の生活の自立ができる生徒

○生活を科学的にとらえる能力（知識・技能・思考力・表現力）・態度がある。

○家庭生活および家庭の機能についての理解が深まっており、知識が体系化している。

（＝科学的概念が形成されている）

○いろいろな事象に対して、これらを総合的に活用することができ、これからの生活を展望し、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度が身についている。

Ⅱ 本年度の研究計画

1 研究の目的

Ⅲ期(中学校2～3年生)

日常生活に必要な衣食住に関する基礎的・基本的な知識及び技能を、科学的視点を織り交ぜた内容の学習で習得させることで、「科学知」と「生活知」の「のぼりおり」をさせる。さらに、地域社会とのかかわりを仕組んだ「ものづくり」により、「ものづくり」への生徒の関心意欲が高まるとともに、自分の技能を人に役立たせるという学び本来の目標へと学びが深化するという授業仮説を検証する。4年目となる本年度も、科学的な見方や考え方を習得する材料として、「文化的・伝統的な視点」を取り入れる。

2 研究の方法

- (1) 日本の衣服に関する歴史的学習，衣生活に欠かすことができない布における「世界と日本」の共通項をさぐる学習を行う。その後，学習したことを人に役立てることをゴールとして，幼児のための布絵本の製作を行う。この一連の検証授業を，A群・B群において実施する。A群については，対象の幼児を限定せず「幼児に役立つ絵本を作ろう」をテーマに製作を行う。B群については，対象となる幼児を，モン族の子どもたちに限定して製作させる。
- (2) 検証授業を実施し，授業後のアンケート及び感想を分析することによって，授業仮説を検証する。

Ⅲ期(中学校2～3年生)

A群：単元の中の「ものづくり」の実習の授業において，製作の目的に関わる対象者をはっきりと限定せず，人に役立つ布絵本の製作を行う。

B群：単元の中の「ものづくり」の実習の授業において，製作の目的に関わる対象者をモン族の子どもたちとして，モン族の子どもたちに役立つ布絵本の製作を行う。

(3) 検証方法

- ・授業前の生徒の意欲・関心，知識・理解に関するテストを行う。以上をプレテストとする。
- ・授業後に生徒の意欲・関心，達成感に関するアンケートを行う。以上をポストテストとする。
- ・A群とB群のポストテストの結果を比較し，授業仮説を検証する。